

瀬川 徹夫 氏

(映画録音技師、城西国際大学メディア文化学科 客員教授)

日 時 平成26年10月4日(土)午後5時40分より

演 題 ドキュメンタリー映画 「灯り続けた街の明かり」

～みちのくの医師の信念～

瀬川 徹夫 (せがわ てつお) 氏 Profile

映画録音技師、城西国際大学メディア文化学科「音響表現論」講師、日本アカデミー賞協会会員、日本映画テレビ技術協会会員、日本サウンドスケープ協会会員。

岩手県盛岡市出身(昭和18年10月26日生れ)、学業終了後、昭和39年株式会社アオイスタジオに入社、スタジオ録音技師として15年間在籍し、その間に映画「怪談」「東京オリンピック」「札幌オリンピック」「大阪万国博覧会」などの録音スタッフとして参加。24才の折、ジョンブアマン監督による「太平洋の地獄」でハリウッド映画の撮影に参加し、映画録音の魅力にとりつかれる。昭和54年同社を退社、以後フリーの映画録音技師として活動。平成1年、株式会社プロダクションゆりーかに依頼され録音スタジオ「Digital Sound Design EURIKA」(DSD ゆりーか)を設計設立、世に先駆けてデジタルベースによる映画録音及びビデオの為にMAスタジオを開設する。平成4年同社を退社し再度フリーの映画録音技師として現在に至る。技師デビュー作「煉獄エロイカ」(吉田喜重監督)をはじめに「あしたのジョー」「チンピラ」「汚れた英雄」「豪姫」「天と地と」「帝都物語」「アキラ」「写楽」「ラヂオの時間」「不夜城」「みんなのいえ」「梟の城」「スパイゾルゲ」「チルソクの夏」「姑獲女の夏」「The 有頂天ホテル」「男たちの大和」「容疑者Xの献身」「アマルフィ」「アンダルシア」などを担当。近年の作品としては「任侠ヘルパー」「真夏の方程式」や「清須会議」など百数十本を越える担当作品がある。長篇記録映画「よみがえる東塔」で日本映画テレビ録音技術賞を受賞、「天と地と」「梟の城」「みんなのいえ」「千年の恋」「スパイゾルゲ」などで日本アカデミー優秀録音賞を受賞。篠田正浩監督の「写楽」では日本アカデミー最優秀録音賞、毎日映画録音賞、日本映画テレビ録音技術賞の三冠を獲得。「ラヂオの時間」「男たちの大和」でも最優秀録音賞を受賞している。また「梟の城」「みんなのいえ」「千年の恋」「スパイゾルゲ」「清須会議」などでも優秀録音賞を受賞している。

東日本大震災の翌年、映画人として故郷のために何か出来ないかと考え、岩手高校卒業生である宮古市の開業医、後藤康文先輩の震災時に於ける偉業をテーマにしたドキュメンタリー映画を企画、2年余りの歳月をかけ現地調査と撮影を行った。

本年3月、念願叶ってドキュメンタリー映画「灯り続けた街の明かり」～みちのくの医師の信念～が完成、5月30日には岩手県宮古市にて市主催による上映会が開催され、インタビュアーとナレーターをつとめた直木賞作家山本一力氏の協力講演もあり700名以上の観客が観賞している。なお、当作品は文部科学省の選定を受け、厚生労働省及び岩手県、宮古市や盛岡市の推薦を得ている。